

人権センターだより

人への思いやりの大切さに気付くまで

中間北小学校5年 早川 乃衣さん

人権とは、人が人として、生まれながら持っている権利です。その中でも、私は、人への思いやりが大切だと思っています。私はもともと、バスケットボールクラブに所属してました。私の友達には、バスケットボールクラブの体験に初めて来た子に寄りそうことができ、すごく思いやりがありました。まず、体験に来た子にチームメイト一人一人の名前を教え、少しでも早く、チームメイトと体験の子が仲良くなれるような状況を作っています。その後、ゴール下からのシュートやドリブル、人へのパスなどの仕方を教えていきました。その友達のおかげで、最初はチームメイトに女の子が二人しかいなかったけど、五人まで増え、私がクラブをやめる最後まで、楽しくバスケットボールをすることができました。と思います。

しかし、私はその友達とは正反対で、初めてきた子に話しかけることができません。そんな私のことを理解してくれている友達は、私の代わりに話をしてくれます。また、私が話しやすいように、いつしよに三人で話せるような工夫をしてくれました。

その友達が、バスケットボールクラブにいなかったら、いろいろな友達と話したり、楽しくバスケットボールを学んだりすることができなかつたと思います。

私は、バスケットボールクラブで出会った友達との関わりを通して、人への思いやりに気付くことができました。ほかにも、小学校生活を通して、「人が困っていたら助ける」「人にゆずる」ということなど、たくさん学ぶことができました。とくに、人が困っていたら助けるということは、当たり前のことかもしませんが、私にとってはかんたんなことではありませんでした。人と話すことが苦手で、なんという言葉を

かけてあげればいいのか分からないで、見て見ぬふりをするところが、今でもたくさんあります。過去をふり返ると自分の後ろでこけたおばあさんがいた時も、見て見ぬふりをしましたが、あの時、助けてあげるべきだったと思います。これまでの経験を通して、人への思いやりはとても大切なものだと、このことを改めて実感しました。これからの学校生活や習い事などで、思いやりの心を持って過ごして行きたいと思えます。私は、思いやりの心を持って行動することが苦手です。その苦手なことに向き合い、行動する私を見て、周りの友達が「思いやりの心が大切だ」と思ってもらえるように過ごしていきたいと思っています。

【私たちが感じた人権 令和6年度小中学校人権作文より】

☆なやみごと相談☆

なやみごとや困りごとについて、

人権擁護委員(中間市在住)が無料でご相談を受けます。
秘密は厳守されますので気軽にご相談ください。

(予約不要)

・9/10(木)・10/8(木)・11/12(木)・12/10(木)
13:30~15:30



問合先) 中間市人権センター

◇「女性のための無料就職相談」◇

就職活動中・そろそろ働きたいと思っている女性の方を応援します。 **※2日前までに予約が必要です。**

・9/11(木)・10/9(木)・11/13(木)・12/11(木)
10:00~12:00

予約問合先) 福岡県ママと女性の就業支援センター
093-533-6637



相談場所) 中間市人権センター

中間市人権センター(ピンクの建物が目印です!!)

住所：中間市岩瀬一丁目17-1

☎093-245-3511

第10回中間市人権フェスティバルを開催しました！

テーマ「未来へ語り継ぐ あなたとわたしの人権物語」

毎年7月は同和問題啓発強調月間です。中間市では、7月25日（金）に、なかまハーモニーホールで「第10回中間市人権フェスティバル」を開催しました。

暑い中にも関わらず、多くの方々にご参加いただきありがとうございました。



（人権作文発表より）

第1部は、オープニングで北九州高等学園生徒による和太鼓演奏から始まり、力強い太鼓の音色が会場いっぱいに広がりました。

中学生・高校生による人権作文発表会は、学校で学んだ人権問題や日々感じている想いを熱く語ってくれました。



（朗読劇より）

「戦争は最大の人権侵害です。」

最後に、中間南中学校の生徒による活動発表と、平和劇で締めくくりました。大刀洗平和記念館へ行った時に学んだことを発表し、朗読劇「沖縄戦ガマの中の出来事」（当時ガマの中で何が起こっていたのか？）を通して、熱いメッセージを訴えました。多くの参加者の心に響いたと思います。

<参加者の感想>

- ☆筑前町から来ました。南中学校の生徒さんたちの朗読劇、涙が出ました。強いメッセージが伝わりました。今の気持ちを大事にしてください。みなさんの思い、たくさんの方に伝わったと思います。
- ☆和太鼓の演奏は素晴らしかったです。中学生の主張もみなさんすばらしかったです。
- ☆素晴らしかった！涙が流れました。中学生がこんなに平和を訴えているのに世の中から戦争がなくなる。この子たちの未来が明るいものとなってほしい。中高生の人権に対する思いが素晴らしいと思いました。

第2部は、人権講演会です。前半は、中間市人権擁護委員の三角さんより、絵本「いのちをいただく」の朗読をしてもらいました。この絵本は、市内の小学校でも人権教育教材として活用されていて、命や食の大切さ、仕事について学んでいます。



（絵本朗読「いのちをいただく」より）

後半は、元食肉センター解体作業員で絵本の原案者である坂本義喜さんより、「いのちと仕事

～いのちをいただく～」の題目で講演されました。内容は、一頭の牛との出会いにより、職業観や生命観が大きく変わったことをきっかけに、体験したことを織り交ぜながら、命や食の大切さを伝えていただきました。



（講師 坂本義喜さん）

<参加者の感想>

- ☆小学生の読み聞かせの際に聞いていた絵本の講話を高校生になり、たくさんの知識を得た上で講話を聞いてよかったです。
- ☆興味深い内容でした。知ることで、理解できることもあると改めて思いました。命を解く仕事を体験話からしっかりと理解し、色々な思いを知ることができました。
- ☆とても考えさせられるお話でした。聞いて良かったです。もっと色々な人(子どもから大人まで)にも聞いて欲しいなと思いました。改めて命の大切さや、命に関わる職についている方への感謝の気持ちを持たないなと思いました。